

料金別納郵便



辻 協による「存分に恵の食卓」

令和2年7月6日(月)~12日(日) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時（最終日12日は午後5時まで）

陶歴 昭和5年 東京都生まれ
昭和27年 東京女子美術専門学校（現女子美術大学）洋画科 卒業
ガラス板に漆を塗って彫刻する独創的な作品を制作
昭和28年 辻 清明氏と結婚。結婚をきっかけに作陶を始め、多摩に陶房を築く
昭和45年 女性としては初となる日本陶磁協会賞を受賞
平成20年 死去（享年77歳）
パブリックコレクション 東京国立近代美術館、米 アートコムプレックス美術館
英 ヴィクトリア&アルバート博物館 等

辻 協さんは、女性陶芸家の草分け的存在として、粉引手などの一風ある優美な焼き物を作っておられました。ご主人様は、日本陶芸界の巨匠、辻 清明氏。協さんは料理の腕前も玄人はだして、多摩の辻陶房では、作陶の傍、多くの友人達にしょっちゅう手料理を振る舞っていたそうです。さぞ美味しく、さぞ楽しいひと時だった事でしょう。

さて、本展は、彼女が上梓したレシピ本のタイトルに合わせ「存分に恵の食卓」と題し、国内で初めて、遺作の食のうつわを展覧致します。お料理好きな協さんだけあって、その使い勝手も良く、可憐で気品あるうつわで一層、料理映える事は間違いありません。

ご長女のけいさんから、本展のDM作品を「ささゆり」と銘が付けられた器にしたらどうでしょうとの素敵なご提案。協さんか信奉されていた奈良にある率川（いさか）神社では、毎年6月、「三枝祭」という祭礼が行われ、この祭ではささゆりを献じ、疫病封じを祈るそうです。

皆から愛された辻 清明さんと協さんのご夫妻。お二方も天の国から、ささゆりと共に、コロナ禍の終息を願っておられる事でしょう。どうぞご清覧頂ければ幸いです。 店主 安田尚史

柿屋ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式Instagram

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
TEL.03-3352-5118 mail : gallery@kakiden.com
http://www.kakiden.com/gallery



新型コロナウイルスの影響で、店舗を閉め、オンライン展示とさせて頂く可能性があります。
お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページにて、最新情報をご確認頂ければ幸いです。

